

船舶事故調査報告書

平成29年7月13日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根 本 美 奈

事故種類	転覆
発生日時	平成28年3月5日 09時05分ごろ
発生場所	山口県萩市越ヶ浜半島北東方沖 萩漁港越ヶ浜A防波堤灯台から真方位324° 1,600m付近 （概位 北緯34° 27.8′ 東経131° 24.3′）
事故の概要	ミニボート（船名なし）は、越ヶ浜半島北東方沖を南東進中、転覆した。 ミニボートは、操縦者が死亡して同乗者が負傷し、船外機に濡損を生じた。
事故調査の経過	平成28年3月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	ミニボート（船名なし）、総トン数なし なし、個人所有 約3.05m×約1.20m×約0.43m、ポリエチレン ガソリン機関、1.5kW未満、不詳
乗組員等に関する情報	操縦者 男性 42歳 操縦免許 なし 同乗者 男性 24歳 操縦免許 なし
死傷者等	死亡 1人（操縦者） 軽傷 1人（同乗者）
損傷	船外機に濡損
気象・海象	気象： （1）福岡管区気象台における気象予報 平成28年3月4日17時及び同月5日05時の山口県の天気予報の発表内容 ① 平成28年3月4日17時の山口県の天気予報の発表内容 （山口県北部） 今夜 南の風、曇り 明日 陸上では南の風、海上では後南の風やや強く、晴れ 朝晩曇り、所により夜遅く雨

明後日 南の風、曇り時々雨

海上

今夜 波 1 m

明日 波 1 m 後 2 m

明後日 波 2 m 後 1.5 m

気温 明日朝の最低 (萩 13℃)

明日日中の最高 (萩 21℃)

② 平成28年3月5日05時の山口県の天気予報の発表内容
(山口県北部)

今日 南の風後やや強く、晴れ夕方から曇り

明日 南の風やや強く曇り、朝から夕方雨、所により昼前から夕方雷を伴う

海上

今日 波 1 m 後 2 m

明日 波 2 m 後 1 m

気温 今日日中の最高 (萩 21℃)

(2) 気象観測値

本事故発生場所の南方約3海里付近に位置する萩特別地域気象観測所の本事故当日の観測値は、次のとおりであった。

時刻 (時:分)	平均		最大瞬間	
	風向	風速(m/s)	風向	風速(m/s)
08:30	南南東	4.2	南南東	8.6
09:00	南南東	9.5	南南東	15.4
09:30	南南東	4.9	南東	10.3
10:00	南南東	5.5	南南東	9.7
10:30	南南東	4.8	南南東	9.5
11:00	南南東	5.1	南南東	11.0
11:30	南東	6.4	南東	11.5
12:00	南東	6.6	南南東	12.4

海象: 波高 約0.5~1.0m、潮汐 高潮時、気温 約17℃、
水温 約14℃

事故の経過

本船は、操縦者及び友人である同乗者が乗船し、平成28年3月5日06時38分ごろから萩市肥島南方沖付近で船釣りを行った後、08時30分ごろ、操縦者が右舷船尾に座って船外機の操縦に当たり、同乗者が後部の渡し板の中央に腰を掛けて前方を向き、肥島南方沖付近から「萩漁港(越ヶ浜地区)」(以下「本件漁港」という。)に向けて帰航を開始した。

本船は、本件漁港に向けて約0.4m以上の波を受けながら越ヶ浜半島北東方沖を南東進中、波が打ち込んで船内に滞留したので、09

	<p>時00分ごろ停船して排水作業を行おうとしたところ、09時05分ごろ波を受けて左舷側に傾斜し、転覆して操縦者及び同乗者が投げ出された。</p> <p>操縦者及び同乗者は、所持していた携帯電話が水没し、携帯電話による救助を要請できなかつたので、転覆した本船の船底に^{つか}掴まり、付近を通り掛かる船に救助されるのを待った。</p> <p>操縦者及び同乗者は、11時35分ごろ、萩市大島南方沖を通り掛かった漁船2隻に発見され、救助された。</p> <p>操縦者は、救助された1隻の漁船により萩市萩港浜崎地区に運ばれた後、救急車で萩市所在の病院に搬送され、溺水による低酸素脳症、肺水腫で死亡と検案された。</p> <p>同乗者は、他の漁船1隻により大島に運ばれ、診療所に搬送された後、他の病院に転送され、低体温症、溺水、急性気管支炎、発作性心房細動及び^{えん}誤嚥性肺炎と診断された。</p> <p>本事故の発生は、同乗者を救助した漁船から連絡を受けた漁業協同組合を経て海上保安庁に通報された。</p> <p>本船は、本事故後、大島南岸に船外機が脱落した状態で漂着し、萩海上保安署により回収された。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図、写真1 本船の全景①、写真2 本船の全景②、写真3 本船の全景③、写真4 船体前部に掲示された最大搭載人員 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、船体に高分子ポリエチレンを使用した中空構造で、船尾部に船外機を備え付けることができ、船体前部に最大搭載人員3人である旨の掲示があり、船舶検査及び小型船舶操縦士免許が不要な船舶であった。</p> <p>本事故当時、本船は、船内に海水が、床からの高さ約0.2mまで滞留していた。</p> <p>操縦者は、本事故発生場所付近の海域において、本船を用いた船釣りの経験が豊富であり、同乗者は、これまでに4回ほど一緒に船釣りを行った。</p> <p>同乗者は、操縦者が、ふだん、船釣りをを行う前日から、テレビ及びスマートフォンにより、天気予報を見て気象情報を入手していたことを見ており、また、3月4日の夜及び5日の船釣り開始前に天気予報を調べていたのを見た。</p> <p>同乗者は、本事故当時、操縦者から、昼から風が強くなるから短時間で切り上げる旨の話聞いた。</p> <p>同乗者は、本事故当時、船釣りに出発する前、風及び波が弱いと感じていたが、本件漁港に帰航中、風力3の風及び波高約0.4mを越える波を感じた。</p> <p>操縦者は、本事故当時、手動膨張式救命胴衣を着用していたが、救</p>

	<p>助された際の作動状況は不明であった。同乗者は、フローティングベストを着用していた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし あり</p> <p>本船は、越ヶ浜半島北東方沖において、風力3～5の南南東風が吹き、波高約0.5～1.0mの波が生じている状況下、船内に海水が打ち込んで滞留するとともに正横付近から波を受けたことから、転覆したものと考えられる。</p> <p>操縦者は、天気予報により、風が強くなるのは昼からと思い、船釣りに出かけたものの、帰航中、風力3～5の南南東風を受けたものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、越ヶ浜半島北東方沖において、風力3～5の南南東風が吹き、波高約0.5～1.0mの波が生じている状況下、船内に海水が打ち込んで滞留するとともに正横付近から波を受けたため、転覆したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発航前に気象及び海象情報を入手し、気象及び海象の悪化が予想される場合、^{たふ}堪航性を考慮して発航の可否を適切に判断すること。 ・水に浮かぶ防水パックに入れた携帯電話等を常に身に付けておくことが望ましい。 ・国土交通省海事局発行のパンフレット「ミニボートに乗る前に知っておきたい安全知識と準備」を参考すること。

付図1 事故発生経過概略図

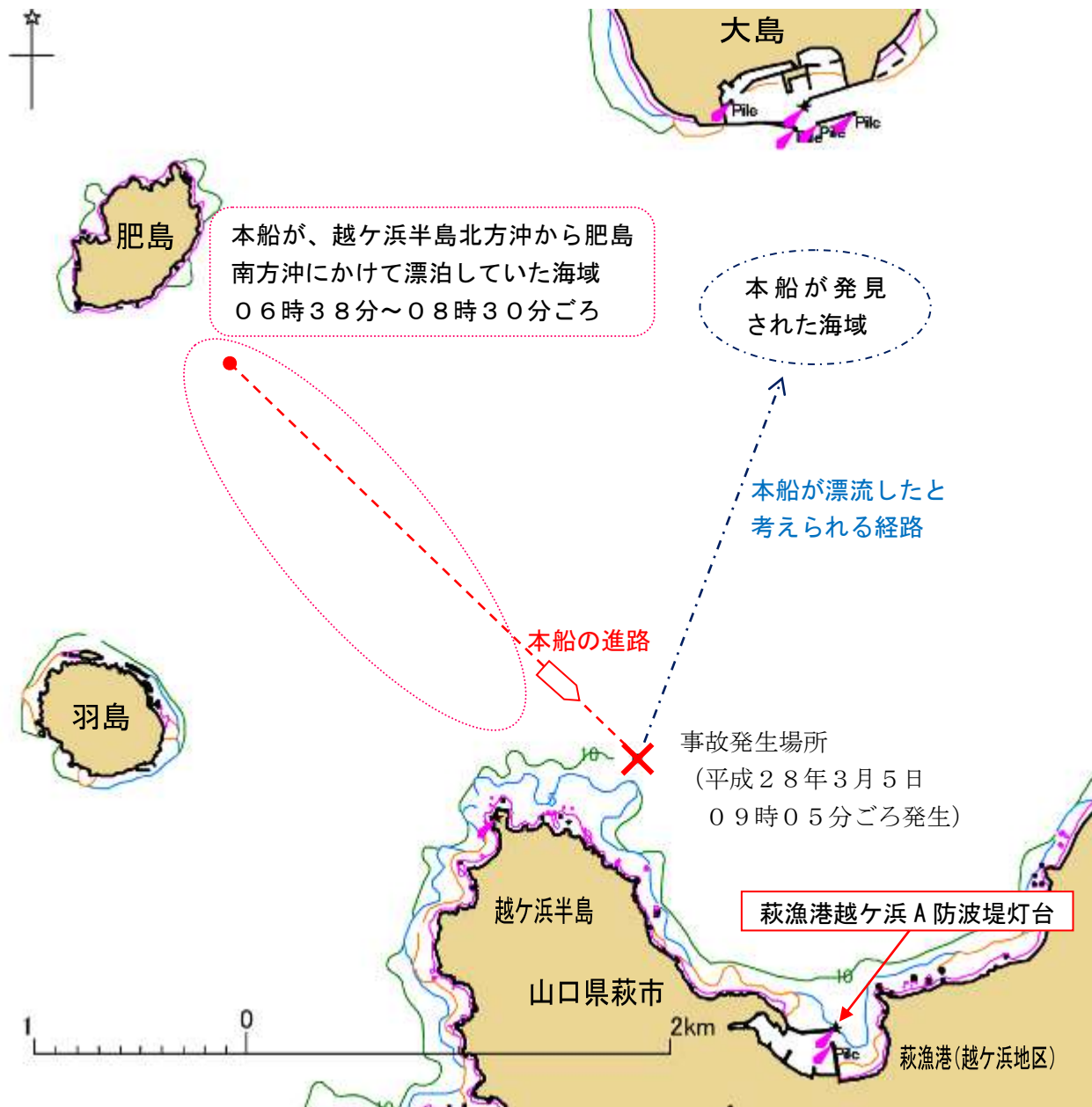


写真1 本船の全景①



写真2 本船の全景②



最大搭載人員の掲示

写真3 本船の全景③



写真4 船体前部に掲示された最大搭載人員

